

『全国学力・学習状況調査を活用した学校改善の推進に係る実践事業』

本事業は、平成19年度全国学力・学習状況調査等の結果を基に作成された「栃木県学校改善支援プラン」に基づく各学校における取組の状況について検証を進めるとともに、自校に見られる課題の改善に向けて、意欲的に取り組んでいただいた「調査活用協力校」における実践を分析・検討し、成果の普及を図るものです。

ここでは、小・中学校それぞれ4校の調査活用協力校において見られた主な課題に対して、立案した解決方策や実践例を「学校改善支援プラン」に照らして示させていただきます。

●調査活用協力校●

〈小学校〉

- ・さくら市立南小学校
- ・那須塩原市立黒磯小学校
- ・那珂川町立馬頭小学校
- ・足利市立けやき小学校

〈中学校〉

- ・上三川町立明治中学校
- ・鹿沼市立栗野中学校
- ・益子町立七井中学校
- ・下野市立南河内第二中学校

●主な課題●

- 問題の意味を読み取り、解決方法を見出すこと
- 問題の条件を整理し、筋道立てて考えること
- 情報の中から必要なものを取捨選択（分類・整理）して使うこと
- 解決の手順を整理して文章に表すこと
- 読み取った情報を基に意見を書くこと
- 自分の考えを明確に書くこと
- 自分の答えの理由を説明すること
- 論理的に表現したり、説明したりすること
- 基礎的・基本的な知識・技能の定着
- 学習意欲
- 家庭学習の習慣化

学習基盤づくりのための工夫

一人一人が学びに向かい、互いに高め合うことができる集団づくりのために指導・援助を大切にしていきます。

望ましい学習習慣づくり

各教科の学習方法やポイントなどをまとめた「学習の手引き」「学習ナビゲーション」等を作成し、効果的な学習活動を支援する。

読書活動の継続

- ・全校一斉の読書実施
- ・ボランティアや図書委員などによる読み聞かせ
- ・町の移動図書館との連携

学習環境の工夫

算数コーナーを設置

- ・図形に関するクイズを廊下に掲示
 - ・量感覚や数感覚を高める教材・教具を常時掲示
- 授業で扱った教材・教具を休み時間に自由に使えるコーナーを設けるなど、日常生活の中で児童同士が問題を出し合い、繰り返し取り組むことにより、算数を生活の中の身近なものとして感じたり、算数は楽しくて大切なものと感じたりできるような工夫をする。

教師の授業力の向上

積極的な授業公開と校内授業研究会

【中学校の実践】

- （学年・教科の枠を越えての授業参観 互いに学び合う授業研究会）
- ・他教科の授業を参観する際に、教師自身が自分の教科に応用できることを意識しながら参観する。
- ・授業後の教科部会では、それぞれの教科で実践していることを、教科の枠を越えて話し合う。
- ・授業の記録を残し、工夫改善の共有化を図る。

教職員が学習状況や生活状況、効果のあった指導などについて情報交換を行い、より望ましい指導方法を見つけ合っていく雰囲気が重要です。



一人一人が主体的に思考・判断する活動の充実

自分の力で情報を整理し、事象を見定めて思考・判断する力を日々の授業の中ではぐくんでいきます。

授業で意図することの明確化

育てたい能力を明確にするー表現力・判断力 【低学年の例】

- 低学年**
- 問題を把握し、見通すことができる。
 - 具体物や半具体物を用いて課題を解決できる。
 - 課題解決の方法を自分の言葉で書いたり、発表したりすることができる。

【低学年ー算数】 指導の重点

- ① 問題場面を把握させる。
 - ・ 絵や図で表す。
 - ・ 必要な情報を取捨選択する。
- ② 見通しをもたせる。
 - ・ 見当をつけさせる。
- ③ 解決方法を式や文で表し、説明する活動の充実を図る。
- ④ 日常生活と関連付ける学習を取り入れる。

解決方法を式や文で表し、説明する活動

【第4学年 算数科：小数「小数のたし算とひき算」】

2.5 + 1.3の計算の仕方を考えさせるために、1リットルの図や線分図を準備し、小数のたし算の具体的なイメージがもてるようにした。

本時に至るまでに2.5は、0.1をもとにすると25個分であることを数直線上で対応させ、小数の大きさについての理解を促してきた。

また、子どもが複数の解決方法の中から選択し、解決方法を発表シートに書き、発表する時間を十分にとった。



★ 解決方法を式や文で表したり、伝えたりすることを重視して、自力で解決する時間を十分確保し、自分の考えを書く活動を積み重ねていくことが重要です。

なかなか書けない児童に対しては、絵や図で表すことから考えさせ、教師が問いかけながら考えを聞き取っていくことも大切です。

算数的活動の充実

【第5学年 算数科：「図形」「面積」】

様々な四角形を一人に1セット準備し、実際に動かしながら特徴をつかみ、仲間分けができるようにしたり、作図の指導では、教科書の紙枠を拡大したものを使い、できた四角形から組合せを考えさせ、平行や直角など図形の特徴に気付かせたりした。

面積の学習では、方眼の上に平行四辺形や三角形を描いたワークシートを使い、図形を動かしたり切ったりする操作をやすくして、自力で求積できるようにした。

「主張の根拠を明確にして書く」活動

【(中)第3学年 国語科：「説得のある文章を書こう」】

明確な根拠とはどういうものかということを考えさせる授業。その手立てとして「部活動は楽しいほうがよい」という主張の根拠をプリントでいくつか例示し、それをペアで吟味するという作業を行った。

さらに「部活動は厳しいほうがよい」という主張の根拠を考えて意見文を書くことで、自分で明確な根拠を書くことに挑戦させた。

物事を論理的に思考する活動

【全学年 保健体育科：「器械運動」】

学習カードを系統的に作成・活用することと、技の師範絵やポイントを解説する用紙を周囲に掲示することで、「できるようになるためにはどうしたらよいか」を自ら考えたり、友達同士が互いに教え合ったりすることで、技のしくみやポイントを理解して、実践していく能力を育てる。



伝え合う活動の充実

集団で学習することのよさを生かして、互いに伝え合う活動を充実し、自分の考えを表現するだけでなく、考えや説明を聞き合い、自分の考えを深めたり、広げたりしていきます。

「自分の考えを伝え合い、深め合う」活動

実践例1 【(中)第3学年 国語科：「パネルディスカッション」】

この単元は、「話し合いの話題や方向をとらえて的確に話したり、それぞれの発言を注意して聞いたりして、自分の考えをまとめる。」ことを目標としている。

話し手の意図を理解し、自分の意見と比較しながら聞き、さらに論理性の高い話術を身に付けさせることが指導の目的である。指導の手順は次の通りである。

- 1) 「職業を選ぶ時には何を基準にするのか」というテーマから、選択基準を
 - ①「やりがい」
 - ②「収入」
 - ③「ゆとり」
 - ④「興味・関心」の4つに絞る。
- 2) 生徒をその基準に沿って4つのグループに所属させる。
- 3) パネリストの主張発表をまず行い、次にパネリスト同士の意見交換をさせる。
- 4) フロアの生徒と全体討議をさせる。



★ 話し合い活動の機会を設けることで、生徒は友達の意見を聞いて考えを深めたり、勇気をもって発言できたりするなどの成果が見られた。

話し合い活動を取り入れることは、生徒の思考力や学習意欲を高める有効な手立てであることが分かった。

実践例2 【(中)第1学年 美術科：風景画 A表現(1)】

風景画の下書きがある程度進んだ段階で、小集団による話し合いの時間を設定する。

教師はまず彩色の方法や用具のバリエーションを例示し、その効果について実際の作品を使って実感的に理解させる。

その上で、小集団ごとに互いに下書きを鑑賞し合う。その際、制作の意図や主題などについて制作者から説明させる。それを受けて、感想を伝えるとともに、どのような彩色方法が制作意図に適していると思うかを互いに助言し合う。この過程を経てから、彩色方法を決定し、彩色の段階に進ませる。



★ これまであまり作品制作に自信がなく意欲を示さなかった生徒であっても発想が広がり、具体的に表現の工夫の仕方が分かるので、意欲の高揚がみられた。一斉に制作に没頭している状況の中では、制作方法などについて一人で思い悩むことも予想されるので、この方法を取り入れることにより、他者の考えや自分では思い付かなかった表現の工夫を知ることができる。また、目的に応じて作品を理解したり解釈したりする能力も育成できる。

学習スタイルを工夫した授業展開

家庭と連携・協力し「復習－予習－授業」の学習サイクルを徹底する。さらに「教えて考えさせる授業」を展開する中で、理解深化の段階において、友達に説明する活動を取り入れる。このことにより、自分自身が分かっているところを発見でき、正しく理解できているかどうかを知る。教えることによって、お互いにより深い学びができるようになる。



授業の流れ

【第2学年 算数科：「三角形と四角形」】

- 教える
・算数用語や三角形、四角形の意味を教える。
- 理解確認
・自分なりに友達に説明し伝え合うことを通して、分かった度合いの判断を自分でする。
- 考えさせる
・三角形や四角形の定義を確認し、正しい三角形や四角形を見つける。
(理解と思考を深める発問や課題を教師が用意)
- 理解深化
・本時の学習を活用する問題を解く。**選んだ理由を友達に説明し確かめる。**
- 振り返る
・分かったこと、まだよく分からないことをノートにまとめる。

家庭学習の習慣化

家庭学習の内容と学校の授業内容とをより効果的に関連付けていくことを大切にします。

家庭学習への意欲付け

- 『家庭学習の手引き』の配布と活用の具体的指導
 - ・年度当初に配付し、やり方について学年に応じて指導する。
 - ・子どもが学習してきた内容を学級で紹介する。
 - ・子どもが課題に対して分からないところに印を付け、担任はそこを確認し助言する。
 - ・担任がコメントを入れる。
 - ・終了したノートを展示して、取組の参考とさせる。
 - ・小中で参考となるノートを交換し展示する。
(学校公開時に展示することで保護者の意識向上を図る)



[廊下の掲示板上で啓発資料を見る]

保護者への啓発

- 学校だより、学年だより、保護者会等で家庭学習への協力の呼びかけ
 - ・家庭学習の方法、規則正しい生活、読書のすすめ、食生活の改善等
- 保護者による学習状況の把握・確認
 - ・テストファイルと宿題ファイルを通して確認できるようにする。
 - ・学年だよりで学習内容の伸びや課題を知らせる。
- 発展的な算数問題の提示
 - ・保護者が問題を作る。
 - ・家庭で家族と一緒に考える機会をつくる。
- 外部講師を招いて、子どものほめ方等の講話・研修

家庭学習の状況把握

「学力向上タイム」：家庭で学習する課題を出したり、宿題の点検等をしたりと、学校の日課の中で指導する時間をとる。
(火～金 帰りの会前の10分間に実施)

- ①家庭学習をサポートする、家庭学習につなげる指導の時間
- ②知識・理解の定着やその活用に向けた指導の時間

※定期テスト前は全校一斉に家庭学習について担任と学習相談を実施する。

各学年の実践例

1 年	2 年	3 年
家庭学習サポートタイム 家庭学習の課題の中から、確認テストをする。 国：漢字家庭学習用シート 確認テスト 数：ワークシートと確認テスト 英：単語家庭学習用シート 確認テスト	定着していない数学の復習 1クラスを半分ずつに分けて少人数にし、2学年フロアの6カ所でプリント学習をする。担当教師がそれぞれの場で指導にあたる。	数学の力を向上するための学習 生徒の希望により、4クラスの生徒を5つのコースに分ける。 (基礎1・中間3・発展1コース) 全員同じプリントを用意しているが、担当教師が生徒の様子に応じて百マス計算のプリントを入れたり、時間を切って計算させたり工夫して進めている。 家庭でも自主的に進められるようにしている。
定着していない内容の個別指導 教師がチームを組んで特に指導が必要な生徒を丁寧に指導する。		

「学校改善支援プラン」では、家庭で取り組むこととして次のようなことを家庭に呼びかけています。

- 1 食事をきちんととらせる
- 2 生活のリズムについて見直す
- 3 自分のことは自分でできるように努力をさせる
- 4 ほめる機会を増やす
- 5 豊かな人間性や規範意識を身に付けさせる
- 6 家庭でのコミュニケーションを大切にする
- 7 読書の習慣を付けさせる